

いつもの学習予定に読書タイムを！

第78回読書週間の標語は、「この一行に逢いにきた」です。読書の秋に、感性をはぐくむ一行に出会えるといいですね。本を読んで、豊かな時間を過ごしましょう。学校図書館にも新しい本が並んでいます。古今東西の名作も、あなたを待っています。感動する1冊にめぐり逢いましょう。

今月のおすすめ本

○『教室に並んだ背表紙』相沢沙呼 著 集英社

佐竹あおは、2年生図書委員。1年の時自分を陰キャラといった三崎が一人図書室でお弁当を食べている所に遭遇する。司書のしおり先生から「おすすめおしえてノート」を書いて本選びに困っている人の参考にしてもらうことで、三崎とも・・・？



○『ショダチ！藤沢神明高校でこぼこ剣士会』向井湘吾 ポプラ社

慧一は高校1年生。中学まで剣道をやっていたが、自分の為に負けた試合を後悔し、剣道をやめてしまう。それなのに体育で模範試合をたのまれて……。消滅寸前でこぼこ剣士会に入ることになってしまう。



○『15歳のエッセイ①むねにひびく』和合亮一 編 ゆまに書房

エッセイ集です。長田弘の「ラブレター」では男子4人が、憧れの少女4人に同じ文面の手紙を書いて送ったことで、校長先生や少女の親に呼び出され説教。その挙句体育館掃除に駆り出されて、女子に復讐されるちょっとこわいエッセイ。② ③もあります。



○『国語をめぐる冒険』渡部泰明・平野多恵・山口智之ほか

岩波ジュニア新書

本書は、『伊勢物語』の「東下り」に旅する主人公の冒険とは？「言葉で心を知る」の『走れメロス』(太宰治)では「他者が見えたら、自分が見える」、さらに「山月記 李徴」(中島敦)では国語を学んで本を、どう読んでいくか？ 生きる道しるべにもなる。



10月の人 パブロ・ピカソ 1881. 10. 25 91歳で没。スペインの画家。20世紀美術界の先頭にたって大活躍した。特に母国スペインの内乱で犠牲になった人々を追悼した、「ゲルニカ」を1カ月あまりで描きあげた。パリ万博で展示、大きな反響をよんだ。